

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

B

- d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。
- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

- 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。
 - a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
 - b 脱字。
 - c 文末の句点の脱落。
 - * 字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
 - d その他不適切と判断せざるをえない箇所。
 - e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。
 - たとえば「〜とはどういうことか」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。
 - また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。
- *ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理

が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合がありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

大問一 問(一)

基準 配点：1点×5

■模範解答 ※解答例通り(漢字書き取り問題)

#

(1) 遭遇

(2) 途端

(3) 不変

(4) 辛辣

(5) 実践的

大問一 問(一)

■形式上の不備

- ・文末表現：要素D参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い：1点減点

基準 配点：14点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A 未知のものがもっている新鮮さを

B 既知のものに置き換えることで

C 否定し、

D 対象を陳腐なものにしてしまうもの。(50字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…五十文字以内 二十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 未知のものもっている新鮮さを…4点

- ・認識の対象が未知のものであることを説明していないものは、要素A加点数なし
- 「新鮮さ」は「新しさ」などでも可。

■要素B 既知のものに置き換えること…3点

- ・未知のものを既知のものに置き換えることについて説明していないものは、要素B加点数なし
- 「既知のものへの置き換えによって」「既知の類似したものへの交換する」「自分がすでに知っている者、見たことがあるものによって」などでも可。

■要素C 否定し…3点

- ・要素Bは要素Aを否定することであると説明していないものは、要素C加点数なし

■要素D 対象を陳腐なものにしてしまうもの…4点

- ・認識が対象を陳腐なものにするということを説明していないものは、要素D加点数なし
- 「認識化した対象を陳腐化する」「対象を陳腐なものとする営み」

大問一 問(三)

形式上の不備

- ・文末表現：要素D参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い：1点減点

基準 配点：14点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A 理解できない自己を

B 理解しようとする

C 個性が既知の共通認識に置換され、

D 自分の中の固有性が失われてしまうということ。(57字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…六十字以内 二十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 理解できない自己を…4点

・自己の理解が困難であることを説明していないものは、要素A加点数なし
「理解することのできない未知の自分」なども可。

※自己について「理解できない」と説明しておらず、単に「自身について」などとしているものは△2点。

■要素B 理解しようとする…3点

・困難さをもつ要素Aを理解しようとする努力について説明していないものは、要素B加点数なし
「認識しようとしても」「知ろうとしても」「理解しようとする努力も」「なども可。

■要素C 個性が既知の共通認識に置換され…3点

・要素AとBの作業が既知の事柄を当てはめることにつながるということについて説明していないものは、要素C加点数なし
「非個性的な部分のみ意識する」なども可。

※「既知の平凡で平均的なものになる」「自己認識が既知の平均的なものになる」は△1点

■要素D 自分の中の固有性が失われてしまうということ…4点

・要素Cの結果、固有性が失われるということの説明していないものは、要素A加点数なし
「固有性が失われる」を「沈没存在だとする」としても可。
「自分の中の非個性的な部分ばかり意識する」「オリジナリティを失ってしまうということ」「自分を誤解し、陳腐化する」なども可。

大問一 問四

形式上の不備

- ・文末表現：要素C参照／理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い：1点減点

基準 配点： 11点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A
自分と似ているからこそ、

B
互いに理解し合えると思っ

C
友達。(30字)

■採点方法：各要素単独採点

■字数：三十字以内 十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 自分と似ているからこそ：4点

・要素Cの存在は「自分と似ている」ということについて説明していないものは、要素A加
点なし

「自分と似た」「似通っている」も可。「感覚が同じ」は×。

■要素B 互いに理解し合えると思っっている：4点

・「私」と「友達」の関係性について説明していないものは、要素B加
点なし
「互いにわかりあえる」「理解可能」なども可。

※「理解できてわかった気になれる」「自分のことを完全に理解している他者」「自身を理解す
るきっかけとなる」など相互性に触れていないものは×。

■要素C 友達：3点

・「もう一人の私」が「友達」であることについて説明していないものは、要素C加点なし
「友人」でも可。

※「存在」「他者という存在」など、友達であることが明示されていないものは×。

大問一 問(五)

形式上の不備

- ・文末表現：要素D参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素D不可。
- ・句点の扱い：1点減点

基準 配点： 16点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A 他者と理解し合うことは不可能で、

B 友人を理解した気になることは

C 交換不可能な友人を凡庸で陳腐なものに貶める行為であり、

D 互いの個性を傷つけて息苦しい関係をつくる結果になるから。(85字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…八十五字以内 四十二字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 他者と理解し合うことは不可能で…4点

・他者との相互理解の困難さを説明していないものは、要素A加点数なし
「原的に理解できないはずの他者」「友達同士がわかり合うことは幻想にすぎない」「友人の理解は不可能」「友達は誤解せざるを得ない存在」「友達を理解しようすると誤解をまねく」なども可。

■要素B 友人を理解した気になることは…4点

・要素Aであるにもかかわらず、友人の理解をしようとするについて説明していないものは、要素B加点数なし
・同意例 友人を必要以上に理解しないようにすれば
「わかった気になる」「わかり合える関係を理想とすると」「理解しているという心構えで関わること」「理解しようすると」なども可。
「相互理解の無理を通すのではなく」「自分の認識と友情を切り離して考えたほうが」「相互関係に負担をかけず依存しないことが」なども可。

■要素C 交換不可能な友人を凡庸で陳腐なものに貶める行為であり…4点

・要素Bのあり方が友人を貶めることになるということを説明していないものは、要素C加点数なし
・同意例 要素Bの同意例を受けて
友人を陳腐なものにすることなく
「友達を陳腐なものに貶めてしまい」「友人を陳腐な存在へと置き換え要する行為」なども可。

■要素D 互いの個性を傷つけて息苦しい関係をつくる結果になるから…4点

・要素Cの結果、自己と友人の関係性がよくないものになるということを説明していないものは、要素D加点数なし
・同意例 要素B・Cの同意例を受けて
互いの個性を尊重できるから
「互いの個性を傷つけあい、息苦しい関係になってしまっ」「互いの個性を傷つけ、不信感を抱きかねない行為」「相互理解の難しさの受容につながるから」「おらかな心構えでかわることができる」「相互理解に負担をかけず、それに寄りかからない」なども可。

大問二 問(一)

基準 配点： 2点×3

■模範解答 ※解答例通り(辞書の意味に当てはまるものを正解とする)

- (1) 家を建てたり直したりすること。建築工事。
* 「素人が行う」「自ら行う」などの要素が入っている場合は1点減点で1点
- (2) たまたまの。思いがけない。
- (3) ちょうどいい頃合い。潮時。

大問二 問(二)

■形式上の不備

- ・文末表現：要素B参照／理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素B不可
- ・句点の扱い：1点減点

基準

配点： 8点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

目の前で弱々しく暗い表情を見せる父を

B

心配するという心情。(28字)

■採点方法：各要素単独採点

■字数：三十字以内 十四字以下のもは全体不可(0点)

■要素A 目の前で弱々しく暗い表情を見せる父を：4点

- ・朝の突然の発作に関わって見受けられる父の弱々しさについて説明していないものは、要素A加点数なし

「父の表情に弱弱しさを感じ」「父の弱弱しい暗い様子」なども可。

■要素B 心配するという心情：4点

- ・父の突然の発作を心配する心情であることを説明していないものは、要素B加点数なし
- ※「心配」を「不安」「案じる」などとしても可。「気にかける」「困惑」は×

大問二 問(三)

■形式上の不備

- ・文末表現：要素D参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い：1点減点

基準 配点：16点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

花が落ちる季節の中、まだ落ちていない花に、

B

自らの生へのわずかな希望を持ちつつ、

C

これから訪れる運命を重ねて、

D

静かな覚悟を決めているという心情。(70字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…七十字以内 三十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 花が落ちる季節の中、まだ落ちていない花に…4点

・椿の花が、落ちることと落ちていないことについて説明していないものは、要素A加点数なし
「椿の花が落ちる季節にまだ残っている花」「花が落ちていない椿を見て」「椿の花が頻りに落ちる木の、花の落ちる気配もなく」なども可。

■要素B 自らの生へのわずかな希望を持ちつつ…4点

・要素Aの「落ちていない」ことが父自身の「生」と重なっていることを説明していないものは、要素B加点数なし
「自分の姿と重ね合わせて希望を持ちつつ」「自らの生を実感させた」なども可。

■要素C これから訪れる運命を重ねて…4点

・要素Aの「落ちること」が父自身の「この先のあり方」と重なっていることを説明していないものは、要素C加点数なし
「いずれ花が落ちることを自分の命の終わりに重ね」「自分の命が終わる時を予感」「自分の死を意識」「いずれは詩に向かっていく」「病状が悪化している自身の姿を重ね」「死を予感して生を諦める」なども可。

■要素D 静かな覚悟を決めているという心情…4点

・微かな笑いとともに発せられた言葉に「重い響き」があることから、父自身に「覚悟」があるということの説明していないものは、要素D加点数なし
「その時を静かに待っている」「将来への覚悟を持っている」なども可。
「心配をかけまいと平静を装う心情」「不安を与えたくない心情」「日常生活を大切に思う気持ち」など×

大問二 問(四)

■形式上の不備

- ・文末表現：要素D参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い：1点減点

基準 配点：16点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

夫が結核であるとわかり、

B

このまま死を迎えるかもしれないということにまで考えが及び、

C

そのことに心奪われ、

D

ほんやりとなっているから。(64字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…六十五字以内 三十二字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 夫が結核であるとわかり…4点

- ・結核であることの認識があるということを説明していないものは、要素A加点数なし
- 「夫が結核であることを知り」など可。
- 「喀血した夫を目の当たりにして」などは不可(「喀血」≠「結核」ではない)

■要素B このまま死を迎えるかもしれないということにまで考えが及び…4点

- ・結核が死につながるという認識について説明していないものは、要素B加点数なし
- 「訪れるであろう夫の死について」「可能性として起こりうる夫の死」「夫が死ぬかもしれないと考え」「夫の死という穏やかに確実に向かってくる破滅を前にして」「夫の死について想定して」なども可。

■要素C そのことに心奪われ…4点

- ・要素AとBのことばかりが母の頭の中にあるということの説明をしていないものは、要素C加点数なし

■要素D ぼんやりとなっているから…4点

- ・放心状態になっていることの説明をしていないものは、要素D加点数なし
- ※「ぼんやり」は「放心状態」「呆然」でも可。
- ただし「途方に暮れる」は×

大問二 問(五)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 14点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

父が来客に対応すること

B

同じような雰囲気の中で、

C

父と対等に話することができたという

D

満足感を得ていたから。(52字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…五十五字以内 二十七字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 父が来客に対応するのと…3点

- ・父の接し方について説明していないものは、要素A加点なし
- 「父が来客に話すように」「健康な時の父が来客に対応する時」なども可

■要素B 同じような雰囲気の中で…3点

- ・要素Aと同じような状況であったことを説明していないものは、要素B加点なし
- 「同じような態度で」も可

■要素C 父と対等に話をする事ができたという…4点

- ・要素AとBのあり方に「対等」を感じたことの説明をしていないものは、要素C加点なし
- 「父と対等に話せた」「父と対等に話している気がして」なども可

■要素D 満足感を得ていたから…4点

- ・要素Cであるために「満足」していることを説明していないものは、要素D加点なし
- 「飲びがあったから」「喜び満了したから」「満足感が勝った」なども可

三(排廬小船)

問一 配点…各4点

■現代語訳の問題

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

■採点方法…各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問

① a取るに足りないb浮ついたcものである。

■要素a 取るに足りない…2点

・「はかなし」の語義のうち「むなしい・たよらない・たわいない・取るに足りない」など。

↓実利がないために、あってもそれほど価値がないものというニュアンス

「線が細く・うつろいやすい・なんとなく」などは×

■要素b 浮ついた…1点

・「浮ついた・うわべだけで実のない」に相当する語。「浮気だ」は×

「うわついで誠意がな」「軽薄めいた」なども可。「浮気な」「しっかりしない」などは不可

■要素c ものである…1点

・断定「だ・である」

「ものになってしまっている」は不可

■その他…真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

② aどうしてb関係あるcうdか、いや関係ない。

■要素a どうして…1点

・「なぜ」「どうして」「なぜ」も反語文としておかしくなければ可。疑問であるのは不可。

■要素b 関係ある…1点

・「関係する・関与する・関わる・関連する」など

「与えられる」「由々しい」は×

■要素c う…1点

・推量「だろう・う」

「という」は不可

■要素 d か、いや関係ない：1点

- ・反語「〜か、いや〜ない」 または解決文「関係あるはずがない」でも可。
- 「いや、関係ないだろう」「いや、関係しない」は可。疑問か反語か判然としないものは×

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問二 配点：8点

■理由説明の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限 八十字 八十字以上は採点対象外

■形式上の不備 ・文末表現要素 e 参照「〜から・ため・ので」など ・句読点は不問

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a 和歌を、国を治め身を修めるための助けだと考え、 b 正しくて実用的なことは全く詠まず、

c 恋や自然美など浮ついたことばかり詠む和歌は d 役に立たないと考えた e から。

■要素 a 和歌を、国を治め身を修めるための助けだと考え：2点

- ・先生が考える和歌の存在意義について。

↓政治(①点) や修身(①点) のためのものであるという考え方がわかれば可。

※「政治」は「政道・国家の統治」でも可。「修身」は「自らを修養する助けとなるもの・自己研鑽」でも可。

※「歌が昔から政治や修身など目的を達成するための手段を言われており」も可

■要素 b 正しくて実用的なことは全く詠まず：2点

- ・先生が和歌に詠むべきと考えているもの。↓「正しい」①点「実用的」①点

※「実用的」は「役に立つ」でも可。

■要素 c 恋や自然美など浮ついたことばかり詠む：2点

- ・先生が不快に思う歌の現状。

↓「恋や自然美など(浮ついている・取るに足りないもの)を詠む」②点
〔恋〕で1点 「自然美」で1点。「花鳥風月」でも可
※「実態は恋や花鳥風月など」「恋や自然美はかりを扱つ」でも可

■要素 d 役に立たない：1点

・「役に立たない・実用的でない・無用だ・不必要だ」など。
・または「心を惑わす・本心を失わせる・淫乱に導く」など。
※人々の心を惑わせ淫らな方向に導く」「手段として遠回り」「実用的なこととは無縁」でも可

■要素 e から：1点

・「から・ため・ので」など。理由説明にふさわしい語尾。

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問三

配点：8点

□語訳の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限なし

■形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

で、
(人の情を大いに動かすものとはいえ) a 利益を求める歌を詠んでも、b まったく風雅ではないので、

c 恥じて詠まないため、d 利益を求める歌はない。

■要素 a 利益を求める歌を詠んでも：2点

・どのような歌か↓「利益・名誉・名声を求める」「利欲」にあたる語 ①点 「歌」①点

※「歌」は a か d のどちらかにあればよい。

※「名声を詠んだ歌」は×

■要素 b 全く風雅ではないので：2点

・「大不風雅の至り」にあたる語。 「ひどく風流ではない・無風流の極み」など

・「風流・風雅・雅・風情・情趣」など①点+打ち消す①点 など②点

※「風流の心に大いに反する」「風雅とかけはなれていて」「情緒がなく」でも可。

■要素c 恥じて詠まないため：2点

・「恥じる・恥し入る」など②点

※「人々が恥じるため」「恥ずかしいものであるので」でも可。

■要素d 利益を求める歌はない：2点

・「利益を求める歌」↑要素aかdかどちらかにあれば○。「存在しない」②点

※「利益を主題とする歌はない」「利益へ欲望を詠む歌は存在しない」

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問四 配点：8点

■内容説明の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限 六十字以内 以上は採点対象外

■形式上の不備 ・文末表現「〜こと。言っている」など ・句読点は不問

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a 歌は本来どのような気持ちでも詠めないことはないが、b 風雅でなくなるものを選んで詠まな

いだけのことであること。ということ。

■要素a 歌は本来どのような気持ちでも詠めないことはないが：4点

・「歌は」①点 「すべて」の心情を「②点」「詠むことができる」①点

※「歌」は「歌道」でも可。

「歌は心情を何でも詠むことができる」「歌は思ったことは何でも詠める」も可。

■要素b 風雅でなくなるものを選んで詠まないだけのことである：3点

・「風雅でないもの・悪事」①点 詠む人の意図として「詠まない」②点

※「悪事を詠まないのは風雅でないからだ」「風雅でないものが詠まれないのは詠み手の判

断」「詠み手が風雅なものを詠もうとしている」「作者が情緒に欠けることは詠みたくない」
でも可

■要素c ということ：1点

・内容説明にふさわしい文末「〜ということ・こと・こと」を言っている「(る)」

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問五 配点：8点

■本文の趣旨説明の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限 五十字以内 以上は採点対象外

■形式上の不備 ・文末表現「〜もの／と考えている」など ・句読点は不問

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a 詠む人の切実な情に従って b 風雅を尊び詠まれるもので、 c 詠む人によって千変万化し、

d その徳は広大無辺である。

■要素 a 詠む人の切実な情に従って：2点

・歌は詠む人の「思うこと・心情・情・思情」を詠む」ことがわかれば可

※「詠み手の心情で」「和歌は心に思うことを何でも詠める」

「詠み手の思いによって詠まれる」「思ったことをなんでも表現できる」

■要素 b 風雅を尊び詠まれるもので：2点

・「風雅を尊ぶ道」であること。↓または「風雅ではないものは詠まない」

※「歌道は風雅であるもの限り」「風雅を志す」「風雅を大切にしている」

「情緒を重んじて詠まれる」「風雅を旨とする」「優れた情緒を追求する」でも可。

■要素 c 詠む人によって千変万化し：2点

・「歌は詠む人」(①点) によって「千変万化(さまざまに変化する)」(①点)

※「千差万別」は「善にも悪にもなりうる」は×

「詠み手によってさまざまに移り行く」「実際は心に従ってどんなものでも描き出す」

「詠む人の正直な心に従って」も可。

■要素 d その徳は広大無辺である：2点

・「歌の徳」(①点) は「広大無辺(果てしなく広い)」(①点) である

※「歌の徳は無限に広がる」も可

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問、文のつながりも多少の不具合は可とする。

四 漢文 四十点

問一

各2点×2＝計4点

(1) いやしくも

(2) まさに

▼解答通り

問二

各6点×2＝計12点

(ア) たらざるところ／をろんずれば

●以下のように、二分割して採点します。

- ① たらざるところ 3点
- ② をろんずれば 3点

▼①↓②の順序になっていない場合は全体として加点数なし。

▼読点「、」の有無は不問。

②は「ろんぜば」でも可。

(イ) いたずらに／じんいをみだす／のみ

●以下のように、三分割して採点します。

- ① いたずらに／ただ 2点
- ② じんいをみだす 2点
- ③ のみ 2点

- ▼①↓②↓③の順序になっていない場合は全体として加点なし。
 ▼句点。」の有無は不問。
 ①は「いたずらに」「いたづらに」「ただ」「いずれも可」。
 ②は「ひとのいをみだす」も可。

問三

8点

道徳・気骨・学術・才能の四つ／すべてを備えた人材を求める／べきだということ。

●以下のように、二分割して採点します。

- ① 道徳・気骨・学術・才能の四つ 4点
 ② すべてを備えた人材を求めるべきだということ。 4点

- ▼①・②の順序は不問。どんな形であれ、①・②の要素に触れていれば可。
 ▼解答全体が答えとして不適切な場合は、①が当たっていても全体0点。

加点条件

①「四者」は「道徳・気骨・学術・才能」「徳量・気節・学術・材能」など。

②は「四つ全てを備えた人材を求めるべきだ」など。

※「人材を求めるには、(採用する側が)四つ全てを備えていなければならない」と解釈している場合は不可。「人材を求めるには、道徳・気骨・学術・才能の四つを備えていなければならない」という直訳調では、「四つ全てを備えた人材を求めるべきだ」という趣旨を把握できているかどうか不明で、説明になっていないので不可。

※「求めるべきだ」「求めなければならない」など、「不可不」を踏まえた解釈になっていること。「求めるということ」「などの場合は2点減点」。

問四

6点

人はやはりどうして皆完全であることなどできようか。

- ▼①↓②の順序になっていない場合は全体として加点なし。

▼加点条件

(1)「亦」は「やはり」あるいは強調表現。「完全であることなどできようか」「完全であることは

できるわけがない」など、何らかの形で強調さえしてあればよい。

(2) 「安能」は「どうして……できようか」「……できない」「どうして……できようか。いや、できなう」など。

(3) 「皆全」は「みな完全である」「だれもが完全である」「すべてを備えている」など。「皆」と「全」を「(人は)だれもが(みな)四種の才能全てを身につけている」と正しく解釈していればよい。

↓ 合わせると、「人はだれもが四種の才能全てを身につけられるわけではない」という部分
否定の表現になる。

(1) ・(2)・(3)をチェックして、一つ不備があれば△3点、二つ以上不備があれば×0点。

問五

10点

道徳・気骨・学術・才能のどれかに優れれば、一流の人材になれるが、／ 策略や私情に走るとその長所を台無しにしてしまうこと。

● 以下のように、二分割して採点します。

- | | |
|------------------------------------|----|
| ① 道徳・気骨・学術・才能のどれかに優れれば、一流の人材になれるが、 | 5点 |
| ② 策略や私情に走るとその長所を台無しにしてしまうこと。 | 5点 |

▼ ①・②の順序は不問。

▼ ①は「道徳・気骨・学術・才能のうち、どれか一つにでも優れれば、一流の人材になれる（中流の人材にはならない／凡庸な人材に留まることはない）」に触れていれば可。

▼ ②は「(存心できず、情に流されて善の心を失い) 策略や私情に走るとその長所を台無しにしてしまうこと」に触れていれば可。

※ 「存心」こそが一流の人材の前提条件であり、才能はありながら「存心」できなかつた事例が崇姚と李徳裕である。彼らは「権数に蔽われ」「愛憎に溺(れた)」結果、勝るところが台無しになってしまったという。この「能力があっても善なる心を失ったら台無しになる（一流の人材どころか害悪になる）」という点が②の核心になる。「策略や私情…」の代わりに「情に流されて善の心を失うと…」でも可。

(例) 私情に走ることなく、自らのもつ道徳、気骨、学術、才能を求めれば、一流の人

材になることができるということ。

↓①「どれか一つ」、②「策略に走る」の抜け。×（0点）

▼余計なことが書いてあった場合

- (1) 本文の内容と矛盾せず、解答の内容を変えない場合 ↓ 不問。
- (2) 本文の内容と矛盾する、論理的に不自然になる場合 ↓ 各マイナスイタス1点
- (3) 余計な記述のせいで答案全体が意味不明な場合 ↓ 全体0点。